

筑波大学 大学院 経営システム科学専攻

生涯学習への関心が高まる中、世間の多大なる注目を浴び、華々しく発足した主として社会人を対象とする夜間大学院が今回紹介させていただく経営・政策科学研究科経営システム科学専攻です。この専攻は経営学修士過程であり、欧米におけるビジネス・スクール的な役割も期待されています。しかしなせ開講してまだ2学期しか経っていないできたての学科ですから、何から紹介したものやら戸惑いますが、思いついた点から述べていきたいと思います。

まず、この専攻過程の設立趣旨をまとめますと、『経営戦略や国際経営といった経営学の新しい専門領域』と経営におけるツールとして脚光を浴びてきている『数理科学』、『計算機科学』の3つの学問分野を基盤に、社会人である学生が実務における諸問題に対する『問題発見能力』と『問題解決能力』を身につけることを目的として設立されたものです。まさに、時代のニーズに答えるべく、時宜を得た過程と言えましょう。また、この高邁なる理念を実現するために、カリキュラムにおいては、講義よりも演習、討論、修士論文研究等の研究を中心とし、プレゼンテーションやコミュニケーション教育も重視するという工夫がなされています。(この部分受け売り)

ご指導をいただいている優秀な教官の方々については、全員の方を紹介できるスペースもありませんので、簡単に(失礼!/)まとめますと、現在OR学会の会長である森村先生を筆頭に、経営、数理、計算機の各分野毎に6名の先生方がいらっしゃいます。この専攻過程に移る前は私立大学や企業等にいらした方も多く、給与が下がるのもいとわずに参加された方々も多いと聞きおよんでおります。専門も国際経営、会計・財務、経営管理、経営戦略、ファイナンスからOR、統計、数理計画、さ

らには、システム工学、意思決定支援システム、人工知能、プログラミングといった幅広い分野をカバーしています。なお、数理系の教官の方々には、先に述べた森村先生をはじめ、吉澤正先生、高橋宏一先生、鈴木久敏先生、木島正明先生、福田公明先生が所属していらっしゃいます。教官内におけるOR学会員比率の高いことも付記しておきます。(学生会員(正会員?)も増やす予定?)

一方、第1期生としてこの専攻過程に参加している人々の統計数字を挙げますと(個人のプロフィールには触れている余裕がありません。こちらの方がよほどおもしろいのですが)、まず、45名全員がなんらかの職業に就いている社会人であり、男女比率は男性8に女性2、平均年齢は35歳(最年長54歳、最年少26歳、28~30歳が最も多い)、出身大学、出身学部も様々ですが、強いという(どのみち大差がないのですが)東大、早稲田(受験者も多い)が若干多く、学部では自然科学、社会科学系が多いようです。部課長といった役職についている方も多く、職種でいうとメーカー、金融関係の方が多くなっています。皆、さまざまな職務上の問題意識を持ち、意欲に満ちあふれた方々ですが、社会人との二足のわらじは決して楽なことではありません。

場所は茗荷谷の教育大学跡地を利用し、授業は月曜日~金曜日が夜6:20~9:00まで、土曜日は半日分のカリキュラムがあります。学生生活等書きたいことはまだまだありますが、すでに予定のスペースをすぎています。われわれ1期生に課せられた責任は重いわけですが、教官の方々、学生ともに暗中摸索の中、社会的に認知されるよう(?)努力していくつもりです。

最後に、これを読んでいるあなた、あなたもこの学科に参加してみませんか? (吉田敏弘)

× × × × ×